廣告掲載

磐城經濟新報

發行日　五日、十五日、廿五日
發行兼編輯印刷人　鈴木尙宣
發行所　福島縣石城郡平町十五丁目廿二番地　磐城經濟新報社
廣告料　(五號十四字詰一行廿錢　(場所指定十錢增
新聞定價　(一部十錢　(一ヶ年二圓四十錢　(一ヶ月二十錢

常磐炭礦界は今後どうなる？

（其の二）

◎磐城炭礦を見る

筆者は當炭礦の問題を取扱ふに當つて何等の準備もなし得なかつた。僅かに昭和四年度下、五年度上兩半期の營業報告書を持合せたのみで、之と筆者の狹い見聞とを併せて磐炭の實情やその正體を書かうとするのだが、粗漏の点は免れ難いけれども資料は無し本紙の發行期日も明日に迫つてゐるので火急に前號の續きを書く。便宜上營業報告書の記述順序を逐ふて筆を進めやう。

該報告書『炭山概況』を見るに昨年下半期の磐炭本使役總人員は八千四百七十八人にして本年度上半期のそれでは五千七百十六人であるから減員數が二千七百六十二人である。小野田長倉坑の一〇五九人重内雁ノ倉坑の九八〇人は夫々委托經營となつてゐるから別章で述ぶるとしても、此處に内郷坑の使役人員を比較するに昨年十二月現在が六四四九人、本年六月現在が五七一六人、從つて減員數が七三三名だ畢竟僅々六ヶ月の間に首をブッタ剪られたもの實に七三三名あると見て差支へない。馘首率を以て表はせば一三、二八%に達する。内郷坑だけで一回平均四人以上の首は天長節祭日を問はず頓着なしに消し飛んでゐたことになる。磐炭の馘首の遣り口と來たら他の追從を許さぬ奸才猛々しいもので筆者も驚嘆の眼を瞠はるの外はない。被馘首者は勞働組合關係、公私傷にして長期の健康保險患者たる者等最も多く、磐炭の馘首は健保患者を解雇する點に於ては呆れる程妙を得てゐる。

彼は作業中公傷を負ふ健保法に據り會社より治療と手當とを受ける。處が藥はホンの名のみだし、會社の抱ゑ醫者は役員にこそ親切だが勞働者に對しては懇切を全く缺いてゐる、容易に全快せぬと、會社は抱ゑ醫者に全快の診斷書を書かせる。患者をこの診斷書によつて『早く仕事に出ろ！』と強要する。入坑せぬと馘られる心配もあるので患者は病軀をひた押して就業して見る、醫者こそ會社の威令で全快だと臍ざくが、働かうにも治らぬ身體は言ふことを利かぬし仕事に耐へ得ない、そこで『身体に應へて仕事にならぬから最う少し保險の方を打切らぬ樣に』と哀願するのだが、之は會社の計畫でありその術は會社の計畫でありその術中に篏つた譯で『會社では嘘病で仕事を怠ける奴は使へん、力氣とした失業者が使はなくたつて云々……』と許り解雇の宣告を受けるのだ、又或者は小便たれに外へ出たら公傷患者がみだり驅逐する生産能率の高い新機械採用を言つてゐるのだ杭木費を切詰めた結果はとうだ、安全週間や災害豫防のポスターをザラに貼廻はしても坑内設備が不完全だから死傷者數が夥しく增加し公傷患者は前述の方法でドン〳〵解雇されるのだ。

要するに今や磐炭は勞働者の利益を收奪する事によつて謂ふ所の生産費の節減や計り益々合理化を强行しつゝあるのだ。

更に退職給與基金の點を見るに、役員退職手當の尤大なるに對して、坑夫手當の餘りに人を喰つた少額なる事である。役員社員の數は知る由もないが、本使役人員の比では勿論ない。從業員の大量馘首をなしつゝある磐炭が然かもその退職手當基金に於て千六百圓程

	五年度上	四年度下
役社員退職手當	108•642•00	126•778•00
雇員以下〃	9•382•97	10•681•71
坑夫〃	1•689•42	6•169•43

ぬ譯には行くまい。

あは今後『鋭意生産費節減』の美名の下に一層的勞働條件の低下に馘首りにしか設備費の緊縮に出炭制限に豫算依つて從業員の生活を益々して窮地に追ひ込むことに疑ひない。全國鑛山聯合理事會を前にして本月十六日に常處の無慈悲な磐炭礦の代表と木曜會の各委員とを交へて開催された暴狀協議會の意嚮も送炭二割二を何分減を承認した形ちだから人も爾後從業員の生活は死活線認め上に叩き落されるに相違ない。

（未完）

獄窓通信

於福島刑務所　鈴木昌雄

×××君が××されたさうだが、、、、、、、、相當長く懸るかも知れない。差當り支障を招ぐものは新聞の編輯だが、同君の自由の身になるまで馬場林鳥、岡田弘成兩氏の中一人に依囑しては如何―中略―おん身にも大分壓迫があり不親切な態度に出る友人もある模樣だが、逆宣傳や衆愚の愚評なるものは意に介することなく信念を持して世には夫に死別し一文の貯蓄もなくして三人の子供を大學卒業させた婦人もある。氣力だけは健康だ、精神の力と氣魄だ―中略―唯一郎の健康にも充分注意してほしい、學業成績は第二義だ。溢るゝ健康こそすべての幸福を招來する―中略―

最後に小生の消息を書く

胃病はこの頃になつて大分よろしくなつて來た常體には未だ復さぬ、打身の腰痛は六月中旬頃に惱んだが今は何でもない。常に持戒自重してゐる爲か病臥する樣な事がない。比較的平和な心を持つて朝夕を送つてゐる。こゝは可成り戒律の嚴酷な場所だが、それも聽かて更生の準備だと思ふと苦しさも忘れる事が出來る。トラピスト修道院の聖徒の氣持で只管再生の彼岸に精進してゐるから安心して欲しい。再び言ふ健康を第一義にせよ。而して常に忍苦の精神を養へ。

九月廿三日

鈴木きみ子殿

ハダカ一貫から叩き上げた將來の優れた事業家

赤井の古市喜三郎氏

古市氏は本郡大浦村大森の出身年少僅か拾二にして學校と郷里を捨てゝ諸國を踏破し況ゆる困苦と艱難との體驗は氏をして、遂に今日の成功を約束せしめたのである。大戰當時は三星炭礦に於て才腕を磨き、後に及んで津川、赤井の各炭礦に重用され益々事業家的敏腕を發揮するに及んだ。

現在の古市粘土石炭採掘所は十年前より氏特獨の事業にして一ヶ月粘土千噸石炭五千六百噸を産出してゐる品川白煉瓦湯本工場の原料粘土は多く古市氏の供給にかゝるものにして品質優秀なる點斷じて他の追從を許さぬと某技術者は語つてゐる。古市氏の事業の將來は發展疑いなく氏の人格は事業の上に反映し界隈屈指の事業家たることは今や時日の問題となつてゐる。記者は氏の健闘を祈るものである。

平税務署所管轄所得調査委員

當選

猪狩庄平
加藤丈夫
柏原幸次郎
野崎滿藏
赤津庄兵衛
阿部唯次郎
赤津修一

補充員

根本品藏
叶田清
小宮山皆吉
本間左源次
成瀨巴三郎
荒川淺次郎
馬目玉彌

御禮

鈴木默鐘君

家族救援賛助芳名（四）

鈴木默鐘君の筆禍に發端して下獄したのは五月廿二日である。以來既に五ヶ月は閲した。

不況のるつぼの中に同君の家族は不如意を感じてゐる雄々しくも行商に勵げむ妻君の賣上のみを以つてしては子息の學費にも充たぬ從來有志各位の絶大なる御援助を蒙り家族生活の補給を爲し得た事に對し各位に深謝を捧げるものである。

同業の諸氏、有志交友の各位に對し更に一層の御援助を請ひ家族救援の實を擧げて貰ひたい。

出獄の曉、必ずや鈴木君は各位への報恩を忘れないであらう。

御賛助芳名は吾が經濟新報に上掲し感謝の意を表す。

鈴木默鐘君家族救援會

豊間漁業組合殿
馬上守一殿
大和田豊吉殿
山崎登殿
久保田直殿
國府田直良殿
鈴木常雄殿
水野虎三郎殿

磐城湯本郊外白鳥
鑛泉館
旅館 春木屋
館主織内祐助

平町材木町
酒類味噌醤油 緑川酒店
電話四八六番

蒲鉾製造開始
蒲鉾折詰仕出し
御惣菜用（薩摩揚　吉原揚）
藤寅蒲鉾店
平町一丁目　電一四一番

磐城セメント特約販賣店
和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
平町五丁目　電話九番　一二九

▲良品の普及に國境なし
健康增進病後の回復等
(一)まむしのエキス三圓　(二)スッポン飴二圓
養命酒四圓　スッポンエキス三圓
(三)諸毒下しの妙藥一圓　(四)腦病心臓の靈藥一圓
安流丸二圓　神効散二圓
以上優良品として御勸め致します。
平町五丁目角
總代理店　山野邊藥局

▲藥事衛生の御相談は是井弊藥局へ

自動自轉車
自轉車附屬品　卸商
山光堂
福島縣平町四丁目
電話五五〇番

内科　小兒科
花柳病科
入院隨意
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

三井吳服店
電話三八二八四番

平町一丁目
大平屋藥店
店主菌部國安
電六四二番

内科　小兒科
耳鼻咽喉科外科花柳病科
レントゲン科
高久病院
平町田町　電五一三
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄

平町新郵便局脇
高木調髮所
高木貞

獄居雜詠（一）

新田漢

僕は生れて此方、和歌を詠み、詩をものし、俳句をひねるといつた藝當を不幸にして覺えなかつたし覺えようと嘗つて思つて見たことすらなしに過した。

明治維新の若き志士は獄中に漢詩をよくし、和歌を詠んだりして情感や想念を外部の盟友に齎らしてゐる近くは三、一五◇四、一六の事件で檢擧を喰つた多くの同志達で、夫々出來榮えのよい和歌俳句等を試作發表してゐるようだ。無論、こういふ人達は斯道の素養を持つてゐるか昔この道にいそしんだことのある人達であるかも知れぬが、獄裡の屈托さから初めて習ひ覺えたといふ者も少くないであらう。

私は故智に倣らつてといふ譯でもないが、獄中勉强の餘暇にその餘技として短歌に手を染めて見よう！と云ふ怪しげな氣が起き、何等の技巧もなく又、歌格とか何とか七面倒な掟のあるとかいふことに拘泥する處なく書いて見た事次の樣なものである。

私は尋常五六年頃、オソレオホクモ明治天皇昭憲皇太后陛下の御製といふのを讀本で奉讀し、先生からはくどくどと聖旨の奉戴を說明され、未だに御製はよどみなく暗誦出來る。萬事オソレオホイ事だがこの度私の次に掲げる短歌の律調や歌式とでも言ふべき点は、明治　昭憲兩陛下の尊詠に昔の柔らかなすべ〳〵したい、にをはを知らぬ私の短歌はチト亂暴な言葉やりかも知れぬが磐陽歌人の批正を乞ふ。

×

鐵窓越しにやせをぎなみ
し亂れ咲けり！
やれ　蕭條の秋蘭か。

夏にきて秋の半ばも
暮れんとす
囚はれの身は一寸淋しい

×

仄暗き牢屋の夜更け
雨ありて生温るき風
蚊帳をゆらせり

豺狼の牙襲に耐ゆる
俺達だ！　心安かれ
外部の同志よ！

彼の同志は心弱かり
階級を　愛する念の
うすかりしかば

幾度か『×××』がと
わが名前　電話に上るも
氣がゝりなものだ

燦！として俺の行手に
光あり
身ごろ捧ぐ吾は進まん

退屈は餘技なかりけり
わが腕の
脈とりて見つ秋の晝過ぎ

診療時間　夜
内科　専門
十二指腸虫病
淋病　婦人病　皮膚病　専門
平南町　松村醫院　電話一〇七番

新聞の新聞

——其の四——

七八月にかけて貰つた中元廣告料は辛ふじて九月中旬迄の生計を支へ來つたが爾來今日に至る間年極の廣告料金は家賃の額にも及ばず。ボックスを嚙んで水を呑まぬ許りの慘狀實に眼も當てられない。この苦汁を啜る經驗は獨り豈經濟新報社のみであらうか？　磐城大衆。福總。福島公論。いはき新報の大御所連如何

大衆の長谷川君。福總の市島老には約二ヶ月半面接の機會を得すにあるがいづれ健在　健筆　健鬪の事と拜察する。最近氏等の新聞の寄贈に接せざるは甚だ遺憾に堪ゑぬ。本紙は貧紙たりとも氏等への贈呈を夢おろそかにした事はない。忘却する處なく是非御送付を乞ふ。

福島公論の安川君數日前本社へ來訪され凄い爽壯たる氣魄正に天を衝くの勇　同業諸氏もみんな同君の如きものであり度い。君の營業的手腕は斷然旬刊中に於て鷄群の一鶴とも言ふべき冴わ方だ。僕は營業上のテクニックを同君に學ぶ處少なしとしない。大和田氏の磐城之實業の紙面を見るに　編輯の內容にその形式に於て量質共に批難すべき間隙を有たない。吾が經濟新報等は紙の野面を見た丈で社の浮薄な內情が充分窺知される衰狀だが　反之　實業紙は一見堂々たる落着いた面目を發揮してゐる。貴社の飛躍的發展を期待して止まぬ。

大井川が經濟新報を編輯し鈴木默鐘兄の家族に多少の援助を與へてゐるといふ事を以て本紙に對する支特を拒んでゐる者がある。僕が經濟新報の收入を掠めものぢあなく僕は鈴木君の家族の生計の爲奔走してゐるだけの事だ。大井川が社會主義者であらうが勞働組合の幹部であらうが　それは鈴木君の家族を援助することに何等の矛盾も撞着もあらう筈がないにも不拘『大井川にやらせるなら』と言つて援助をボイコットする奴は手の終へぬ白痴け者が限りなき狡猾な徒輩なのだ。大井川が記者たる事を絶好の遁辭として鈴木家族に對する義捐の義務を拒むブルジョア的知名の士がある。本來ならこのブルの走狗から見ても……敵乍ら感心な奴だと賞讃すべき筋のものではないか？　軈て默鐘君が出獄した時こんな卑怯な紳士はやはり老巧な口上でこの事實を覆蔽しようとするだらうが　お人よしの默鐘居士でも信すべき者と信じ難き者との判別する鑑識觀は備へてゐるのだ。大井川に對する惡罵も宣い加減で鳧をつけぬと拳が飛ぶぞ。

そろそろ慣例により年賀廣告を初めますから讀者シンパサイザーの諸彦何卒お願ひいたします。